

平成三十年度

一般社団法人

東京能楽
定式能子
予定協議
会

国立能楽堂

渋谷区千駄ヶ谷四一八
〇三(三四二三)一三三一

【六月夜能】

解説 宮本圭造

狂言「千鳥」

主人から酒を買って来いと言われた太郎冠者。しかし、これまでの酒代のツケが溜まっているため、酒屋はなかなか売ってくれそうにありません。太郎冠者は最近見に行ったという尾張の津島祭りの話をダシに、なんとか代わりなしに酒を持ち帰ろうとしますが……
太郎冠者の作戦は果たしてうまく行くのでしょうか。

能「正尊」起請文・翔入

平家を見事打ち滅ぼした源義経でしたが、梶原景時の讒言によって、義経と兄頼朝との関係は悪化します。義経の命をねらえ、との密命を受けて上洛した土佐坊正尊（シテ）。しかし義経側もその動きを察知し、武蔵坊弁慶（ワキ）が正尊の宿所に赴いて強引に正尊を義経の館へと連行することになります。

義経（ツレ）の御前に連れてこられた正尊は厳しい尋問を受けます。追い込まれた正尊。身の潔白を証明すべく、日本国中の神々に対し、もし誓約に偽りがあった場合には、来世で阿鼻地獄に落ちるのも厭わない、と誓約した「起請文」を読み上げます。虚言とはいえ、窮地における正尊のとっさの機転に感心した義経は、正尊に酒を勧め、酌に立った白拍子静御前（子方）の舞でもてなします。

【中人】

正尊が宿所に戻った後、弁慶は早速、下女（アイ）を遣わして様子を探らせます。すると、宿所では弓馬の準備が整えられ、今にも出陣の様子。それを聞いた義経主従が武具を身に着けて待ち構えていると、やがて正尊が郎等を引き連れて押し寄せてきます。かくして激しい合戦が始まりますが、奮戦する弁慶の前に正尊の郎等は次々と討たれ、正尊もまたついに捕らえられるのでした。

『平家物語』や『吾妻鏡』などに見える、土佐坊による義経襲撃に取材した作品。正尊と弁慶との緊迫したやり取りに始まり、静御前の優美な舞を挟んで、後半、激しい戦闘の場面へとなだれこむ、という緩急に富んだ展開が見事な観世長俊の代表作。正尊が読み上げる「起請文」は、『安宅』勧進帳、『木曾』願書とともに、「三読物」として重い習事とされています。

【九月夜能】

解説 宮本圭造

狂言「空腕」

夕暮れ時に使いを命じられた臆病者の太郎冠者。主人の太刀を借りて出かけることになりませんが、道端の物陰に怯え、誰もいない闇の中で命乞いをする始末。心配になって跡を付けてきた主人に背中を叩かれると気絶してしまいます。ところがその後、家に帰ってきた太郎冠者が主人に語るいきさつは、実際とはずいぶん異なるようです……

「空腕」とは「いつわりの腕自慢」のこと。太郎冠者は一体どんな大法螺を吹くのでしょうか。

能「半部」立花

雲林院の僧（ワキ）が夏安居の期間に仏前に供えてきた立花の供養を行っているところ、どこからともなく一人の女（シテ）が現れ、白い花を仏前に捧げます。その花の名が夕顔であると明かし、自身の素姓についても「名前だけこの世に残り、今は亡き身」と告げ、居場所を「五条あたり」とだけ明かして姿を消します。

【中人】

参詣の男（アイ）から『源氏物語』の夕顔の上についての話を聞いた僧は、先ほどの女のことを打ち明けます。男との対話から夕顔の霊との出会いを悟った僧が、早速、五条に向かうと、そこには荒れ果てた古家の姿があり、中から女の声が聞こえてきます。菩提を弔いましょう、という僧の言葉に、女は半部を押し上げて姿を現し、光源氏と初めて出会ったあの日、夕顔の花を手折って光源氏に差し上げた昔の恋の思い出を物語ります。その思い出に浸りつつ、女は光源氏から贈られた一首の和歌に合わせて、昔を懐かしむ舞を舞うのでした。

シテには、「夕顔の上」と「夕顔の花」の二つのイメージが重ね合わせられていきます。冒頭の立花供養の場も、「夕顔の花」の供養であると同時に、「夕顔の上」の成仏のための供養ともなっており、「立花」の小書が付く今回の演出では、その立花供養が中野幽山（一般財団法人池坊華道会理事）により実際の生け花の形で再現され、舞台を一層華やかに彩ります。

◎東京能楽囃子科協議会定式能 九月夜能

九月十二日(第二水曜日)

午後五時 開場
午後六時 開演

《舞囃子》

觀世流

賀茂 梅若紀彰

素働

柿原崇志 小寺佐七
幸正昭 松田弘之

川口晃平
長山桂三

角当直隆
山崎正道
馬野正基

《二調》

喜多流

柏崎

道行

栗谷能夫

亀井俊一

宝生流

是界

朝倉俊樹

金春國直

《狂言》

和泉流

空腕

野村

萬

野村萬藏

【休憩 十五分】



《能》

喜多流

香川靖嗣

半部

立花

宝生欣哉

國川純
鶴澤洋太郎

一噌隆之

能村晶人

塩津哲生
中村邦生

友枝真也 長島茂
金子敬一郎 栗谷能夫
狩野了一 友枝昭世
大島輝久 栗谷明生

立花

華道家元池坊

中野幽山

終演予定 午後九時

チケット料金

(税込・1枚価格)

		一般				学生
		A席		B席		(GB自由席)
		前売り	当日	前売り	当日	前売り・当日共
夜公演	6月13日	¥8,000	¥9,000	¥6,000	¥7,000	¥2,500
	9月12日					
昼公演	12月12日	¥11,000	¥12,000	¥9,000	¥10,000	
	3月13日	¥6,000	¥7,000	¥5,000	¥6,000	

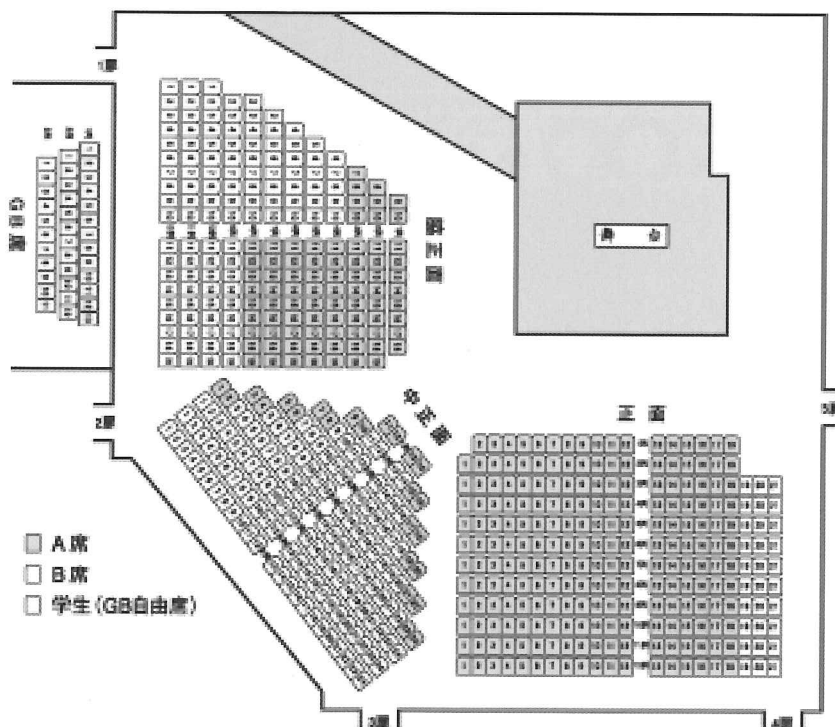
※全席指定（学生券を除く）になります。

※学生券：公演当日に受付にて学生証をご提示下さい。

※チケットのお申し込みは各公演の3ヶ月前の1日10時より受付いたします。

（6月公演は3月1日、9月公演は6月1日、12月公演は9月1日、3月公演は12月1日）

国立能楽堂 座席表



【お申込み】

◇東京能楽囃子科協議会オンラインチケットサービス

<http://nohgaku-hayashika.com/>

◇観劇サイト「カンフェティ」チケットセンター

<http://confetti-web.com>



【お問合せ】

●一般社団法人 東京能楽囃子科協議会

☎ 03-6804-3114

mail hayasika.kyougikai@gmail.com

HP <http://nohgaku-hayashika.com/>

☎ 0120-240-5440 (平日10時～17時)

◇国立能楽堂

☎ 03-3423-1331